

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671500037		
法人名	社会福祉法人 未生会		
事業所名	グループホーム ちくりんえん		
所在地	京都府南丹市八木町諸畑後町14番地		
自己評価作成日	令和4年1月13日	評価結果市町村受理日	令和4年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2671500037-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」		
訪問調査日	令和4年4月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設を取り囲むように山や田畑が広がっており自然豊かな環境です。又、施設の前にある畑で入居者の方と一緒に野菜を作ったり、梅や銀杏、柿、ゆず等を収穫する事で、昔の思い出話を沢山聞かせて頂けるきっかけとなっています。入居者、家族は何を望んでいるのかを第一に考え、職員と共にちくりんえんの特性を活かした生活が維持できるように取り組んでいる。日々の暮らしでは、自宅で行っていた家事(掃除・洗濯・調理)を入居者の方と職員と一緒にやる事で、役割を持ち過ぎて頂いています。現在、コロナウイルスの影響により外出・面会に制限がある状況ですが、季節感・外出気分を感じて頂けるように行事等工夫して行っており、入居者はもちろん職員も笑顔がたえないグループホームになるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、1999年に社会福祉法人未生会により開設され、「帰家穏座」(旅から帰った家人が穏やかに暮らす)の法人理念のもとに、事業所理念を「～笑顔づくり～」と定め、入居者に笑顔あふれる日々を送って頂き、職員は笑顔で接するケアを心がけることを表明されています。春には庭の桜の木々に提灯が下がり、散歩する入居者は赤い毛氈の敷かれた棧敷に憩います。地域の方に頂いた野菜は食卓に上り、散歩で頂いた庭の花がリビングを彩る等、地域からも親しまれ、時には地域の認知症相談にも応じています。自由献立の日や誕生日には、調理師免許を持つ管理者や職員が、揚げたて天ぷらやその場で湯切りをする本格派ラーメン、刺身等の希望メニューを目前で調理してくれます。また、法人は京都ワーク・ライフ・バランス企業の認証を受け、働きやすい職場環境を整え、職員の育成にも力を入れています。主治医や法人の看護師との緊密な連携により、医療・介護のバランスの取れた支援のもとで、自然と人に恵まれた入居者の満足感とその柔らかな表情から伝わってきます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検しうえて、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	採用時や研修時に当事業所の理念を説明し、実践に繋がれるように努めている。又、毎日の挨拶を基本として、笑顔が多く見られる馴染みの関係作りに努めている。	事業所理念「～笑顔作り～」の大項目に、住み慣れた地域で笑顔溢れる日々を過ごして頂く事や、職員がお互いに笑顔で接する事等の細目を加えて、パンフレットに掲げるとともに、事務所内に掲示し、日々実践に繋がっている。「入居者とゆっくり関わられて嬉しい」という職員の表情から、理念浸透の確かさが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会制限等により交流に規制がある中、地域住民の方が「たくさん採れたから皆さんで食べて下さい」と採れたての野菜を持って来られ、施設との交流を楽しんでおられます。	コロナ禍の現在は以前のような保育園児やボランティアとの交流や祭り神輿などは中断しているが、地域が何かと事業所を気にかけておられ、事業所としても認知症の相談などに応じている。散歩中に家々の庭から花を頂き、リビングに飾ったり、馴染みの弁当屋の弁当を頼むなどして、地域との関わりを保っている。米も地元の米農家から買っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られた家族や地域の方からの相談がある。地域事業所の会議等にて事例が上り話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの流行により、9月までは書面にて意見交換実施。11月より会議開催している。運営推進会議での報告や話し合いで、事業の課題など提起して頂き、改善に努めている。	コロナ禍の中、行政の指導もあり、会議は対面より書面での実施が多い。関係者に日常の様子や取り組み、入居者の状況、ワクチン接種に関する事や事故・ヒヤリハット等の資料を作成し、会議で検討している。会議メンバーに事業所の行事などに参加してもらい、一緒に取り組めたらという話もしていたが、当面実現は難しい。なお、議事録は関係者と全家族に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に南丹市役所の職員、地域包括支援センターの職員が参加。事業報告やアドバイス等を受けている。行事等にも今後、参加して頂けるように努める。	市の介護認定審査会に管理者が出席し、定期的に顔を合わせる機会がある。また、日頃から新型コロナ関連の問い合わせや報告を頻繁におこない、老朽化した設備の改修や補助金申請等事務的な事でも連携を図っている。なお、事故報告をあげなければならないような事故はこのところ発生していない。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修(年3回)・身体拘束委員会(年4回)実施している。身体面だけでなく、声掛けや言葉遣いにより入居者の行動を抑制しないように留意している。	法人として身体拘束委員会を3か月毎に開き、参加者は持ち帰って伝達研修をしている。事業所内研修では全職員が講師を持ち回り、学びを深めている。各居室の掃き出し窓から出入りができるが、敢えてそこから出入りする入居者はおられない。外に出たような時は、職員と一緒に庭の散歩や、鯉の餌やりなどをして気分転換を図っている。昼間は玄関は施錠していない。	委員会記録や研修記録はきちんと取っておられますが、全体研修の参加者名が明確ではありません。身体拘束廃止は正職員・パート職員に関わらず大事な事柄ですので全員の関わりを示す記録を残されるようお奨めします。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	家族からの虐待が疑われ措置入所となった方を受け入れており、個人情報の漏洩に注意しながらサービスの提供に努めている。新規入居者との契約時には、虐待防止について説明を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所でも、後見人制度を利用されている方がおられます。又、研修にて学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書を説明し、不明・不安点等があれば再度わかりやすく説明を行い、承諾後に署名・捺印を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの要望等は、日常生活の中で聞き取るように努めている。家族からは、来所時や電話等にて意見や要望を確認している。又、家族代表が運営推進会議に出席して、家族の立場からの意見を出してもらっている。	チラシやテレビなどを見て、「おいしそう！」との声が入居者から上がると、管理者が実現に向けて取り組んでいる。家族からのガラス越し面会の要望を実現し、誕生日のプレゼントや楽しみ事も家族から聞いて用意し、本人に喜ばれている。親睦と意向把握を兼ね、家族を交えた屋外バーベキューを企画したが、新型コロナの再燃で断念している。意見箱に意見は入っていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話や会議・個別面談等により意見や提案を聞く機会を設けて反映している。行事では、担当職員が行事内容を企画し、入居者と共に実行している。	行事担当職員が入居者の意向を踏まえ、ドライブ・夏祭り・ちくりん食堂等の催しを企画し、会議で報告・検討している。備品購入などへの意見も出ている。メンタルヘルスの相談体制もあり、職員から新型コロナ感染者が発生しても個人攻撃をしない事等を事前に取り決め、職場環境の向上に向け話し合っている。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の力量に合わせた目標を提案。又、職員の抱える不安や悩みの解消、働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を月1回実施している。研修担当職員は、交代制として資料作り・自身で研修を行う事でより学べる機会を作っている。又、職員の希望する外部研修や必要であると思われる資格取得の支援等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホーム(ささゆりの宿・しらかば)や他事業所のグループホーム(かたらいの家)との交流がある。合同での行事等を今後検討していきたいと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族と面談、ヒアリングにて意向・要望等を確認している。利用開始後、不安なく安心して過ごして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時より随時、不安点や疑問点、要望について確認を行っている。又、入居後は施設で過ごしている様子を定期的に電話や手紙で伝える事で信頼関係を築ける様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・入居相談・申込時等に、どのような支援を必要とされているのかを話の中で見極め、必要に応じて、他の事業所のサービス等を紹介したり、アドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係作りに力をいれている。又、1人ひとりの「出来る事」「出来ない事」を見極めながら出来る役割を職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設職員だけで支援を行うのではなく、ご家族にも支援に参加して頂ける様に心掛けている。散髪、リハビリ通院、日用品等の購入等出来る範囲で声を掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初詣や花見、紅葉等の季節には入居者の方の馴染みの場所に出かけている。現在、外出制限があり実施できていないが、お寺参り、家族との外出・外泊時に友人や知人との面談にて馴染みの関係継続を支援していた。	昔の写真等を用いた回想法やラジオ体操、家族とのガラス越し面会、地域で取れた梅を使った梅ジュース作り、菜園のジャガイモ堀り、美容師免許をお持ちの家族による訪問美容、針仕事や編み物、Youtubeでの昔の歌番組視聴、電話の取次ぎ、正月の鏡開き等、以前慣れ親しんだ事や人間関係をなるべく継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの個性や能力を理解し、馴染みの関係が作れるように、集団レクリエーション・多人数での関りが苦手な方には落ち着いた場所で会話が楽しめる環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退居となった家族に対し、適切な相談や支援を行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を確認しているが、本人からの意向の確認が困難な場合は、生活歴や家族からの情報等をもとに、ケース会議にてその人らしい生活が送れるように検討している。	日々のケース記録等をもとに、アセスメント表に本人・家族の意向や心身状況等を記載し、小さな変更は手書きで加筆している。担当制により、普段から本人の趣味や思いをしっかり聞き取り、会議を通して職員間で共有している。言葉の出にくい方で、家族からの聞き取りで歌が好きと分かり、好みの歌を流すととても喜ばれる方が居られる。ラーメンが好きな方には誕生日に調理師免許のある職員が本格的なラーメンを振舞っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当CM・関係事業所等から情報収集を行い「生きがい・楽しみ・好きな事や嫌いな事・趣味等」を確認し、日常生活に活かせるように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や業務日誌にて情報共有を行い、心身状態の把握に努めている。又、モニタリングにて進捗状況の確認と新たなニーズの把握も行っている。		

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング3ヶ月に1度行いプランの見直しを行っている。又、心身の状況に変化があれば、随時話し合い介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。医師からは、往診時や在宅療養計画書で指示を受けている。家族からは、面会時や連絡時にも意向確認・状況報告を行っている。	職員の目につきやすいキッチン棚に最新の介護計画を挟み、確認しながら支援するようにしている。介護計画には介護職以外にも主治医や薬剤師などの関わりも明記され、多角的視点が盛り込まれている。支援チェック表には各職員が誰のどの計画を実施したか日々チェックを入れて実践状況を確認し、結果を定期的モニタリングに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況をケース記録に記載。ボールペンの色を変え、見落としが無いように工夫している。又、毎日のバイタル・食事量・排便や尿の回数等をまとめたチェック表を月ごとに作成しており、家族にも送付している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者・家族の要望時には、病院受診や買い物代行、外出支援等、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、ボランティアの受入れや法人内の他事業所の行事等に参加したりと交流を深めていたが、現在は面会制限や外出制限により、実施が困難な状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は、本人・家族等の希望を尊重している。特に希望がない場合には、事業所の訪問診療医をかかりつけ医として紹介している。かかりつけ医とは、24時間体制で相談・往診が可能である。急変時の搬送先も事前に希望病院の確認を行っている。受診対応は、基本家族対応でお願いしているが、遠方・仕事等の理由時には職員が同行している。	主治医は通常月2回の訪問診療をおこない、内科・整形外科・婦人科を診ているが、病状の安定しない時や、臨時の依頼にもすぐに駆け付け、必要な場合は毎日でも夜間でも往診をしている。事業所に看護師はいないが、隣接する法人の軽費老人ホームとデイサービス、ショートステイ事業所に勤務する看護師と連携し、法人全体でフォローする体制がある。薬剤師による配薬や服薬管理指導を受け、必要時は歯科往診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ちくりんえんの職員として看護職員はいないが、同法人の看護師と日常の情報交換や、緊急時の助言等の協力体制が整備されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期に情報提供を行い、入院中には定期的な面会にて状況を把握できるように努めていたが、現在は面会制限があるため地域連携室との連絡を密にとり現状情報の収集や退院に向けた調整に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として看取り体制を行っていない為、入居時に本人や家族に了承を得ている。重度化・終末期に「その人」にとって最適な選択肢を提供できるように医師や家族と早期に話し合い、その際には事業所で出来る事・出来ない事について十分説明を行うように努めている。	重度化された場合や救急搬送時の対処について家族への意思確認をしているが、入居時は本人が比較のお元気なので、気分を害される家族もあり、確認できていないケースもある。確認できた方は職員間で共有している。重度化や終末期に際しては本人・家族等の意向を尊重し、地域の関係機関とも連携し、希望に近いかたちで移行できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の研修を実施している。又、急変や事故発生時には主治医と連携をとり適切な対応が行えるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同法人の事業所との合同避難訓練を実施。消防署立ち合いのもと初期消火や避難訓練を1年に1回実施していたが、今年度は面会制限もあり中止となった。マニュアルに沿った対応が出来るように話し合っている。災害時の備蓄として、水や食料等3日分保管している。	法人内の隣接事業所と合同で火災避難訓練を年2回おこない、運営推進会議で報告をしている。入居者も職員と一緒に敷地内の広場に避難するが、車椅子の方の誘導方法や自然災害への対応は机上訓練としている。職員が消防団員でもあり、地域や消防署との連携体制がある。備蓄は入居者・職員や地域の方の分も考慮し、乾パン、水で戻せる食事・リネン類など3日分程度をストックしている。コロナ禍で消防署の立ち合いがなく、AEDの研修はできていない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内での接遇研修にて入居者のプライバシー保護についての学びを深めている。又、日々の言葉遣い、排泄・入浴時には、プライドを損ねたり、羞恥心を抱かせない様に心がけている。	入居者の思いや生活歴などを尊重し支援している。普段から穏やかで親しみのある声かけで接し、トイレへの誘導は耳元で囁き、衣類着脱場面ではタオルで保護するなどしている。食事エプロンは使用していない。接遇研修は事業所の職員が持ち回りで計画・進行し、管理者は内容の打ち合わせに関り、有意義な研修となるようサポートしている。	築後23年を経て、設備や感染症対策面への懸念があり、法人は今後トイレの改修も視野に入れておられるとのこと。現在、トイレの場所はリビングに近く使いやすいものの、扉の開閉や使用される入居者の動きがリビングから直接見えてしまいます。目隠しのための工夫が望まれます。

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択や役割、レクリエーション、行事の内容等、意向の確認を行い実施するように心掛けている。日常生活においては、不安な様子があれば職員が寄り添い思いを傾聴するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの思い、心身状況に合わせた日常生活が過ごせるように心掛けて支援を行っており、食事の時間や起床・就寝時間も個々に合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容2か月に1回実施。衣類も出来る範囲で選んでいただいている。トイレのたびに鏡を見ながらブラシで髪を研いでおられる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯・味噌汁は事業所で準備、副食に関しては厨房より届き盛り付けのみ実施。毎日ではないが、職員と一緒に味噌汁やお米洗いを行っている。お皿洗い等の方付けは毎日職員と一緒に実施して頂いている。	入居者とともに地場の米を炊き、汁物を作る。通常は法人の厨房で作られた副食類が事業所に運ばれるが、月数回自由献立の日を設け、事業所独自のメニューを提供している。流しそうめんや鍋料理、屋台ラーメン、コース料理や目の前で揚げた天ぷら等、調理師免許を持つ職員が腕を振るい、臨場感のある演出で入居者を喜ばせている。地域の方から頂いた野菜で筍の刺身を味わい、事業所の畑で採れた野菜が食卓に彩を添える。ご飯が進まない方には、さりげなくふりかけ等を用意し、食欲を引き出している。ケーキ、クッキーなどの手作りおやつも共に作り、できる方は、片づけやテーブル拭きもされている。月1回の給食会議では、入居者の摂食状況や献立への意見、行事献立への希望などを伝えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは他事業所の栄養士が管理。食事量や水分量は個々に記録を行っている。水分量が少ない場合にはこまめに声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケア実施。自身で行う事が困難な方は、職員の介助にて実施。必要に応じて訪問歯科と連携をとっている。義歯は夜間預かり洗浄液に浸して清潔保持に努めている。		

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間チェック表に記入。1人ひとりに応じた下着類の選択、排泄間隔での声掛け、心身状況に合わせて実施している。夜間では、排泄パターンを把握する事で安眠に繋がる様に支援している。	トイレで排泄できるように支援している。オムツ対応の車椅子の方が、トイレでは尿意や便意を感じる事ができると分かり、トイレでの座位保持を計画にあげて支援している。便失禁のある方が汚れ物をタンスにしまわれるので、汚物専用のバックを用意し、そこに入れる様こまめに声かけをしたところ、安心されたのか、失禁が減った例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間チェック表・ホワイトボードに記入、排便間隔を職員が把握し、排便間隔が長い際には、往診医の指示のもと服薬調整を行っている。又、毎日体操実施、水分量の確保、ヨーグルト・牛乳等の提供にて便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル確認後に入浴実施。体調に合わせて入浴日の変更も行っている。入浴は同姓介助を意識して実施している。季節湯として、ゆず風呂やバラ風呂(近隣の方から頂いた)を提供し、香りを楽しんで頂いた。	ほぼ3日に1回入浴をしている。時間は本人の希望や行事を考慮して決め、入浴時には皮膚状態の確認や、爪切りなどもしている。同性介助の希望には可能な範囲で対応し、入居者と1対1でゆっくりした時間を作り、時には薔薇やゆず、菖蒲湯等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の落ち着く場所(フロア内のソファや居室ベッド)で休息して頂けている。夜間は、その方に合わせた室温で過ごして頂けるようにエアコンや電気毛布で温度調整を行っている。又、居室の家具も馴染みの物を持参して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬を管理しており、薬の作用についてもお薬リストを確認している。往診時に症状等の報告を行い服薬内容の調整に繋がっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存機能や生活歴に合わせた役割を提案し提供している。又、誕生日等には本人の希望に沿った嗜好品を提供する事で楽しみを持ち過ごして頂けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、ドライブや散歩に出かけており、楽しみや気分転換が出来るように努めている。家族と一緒に外食や外泊に出かけたりしていたが、現在は面会や外出制限により実施する事が困難な状態。	コロナ禍で買い物は中止し遠出は減っているが、気候の良い時は、敷地内の散歩や鯉の餌やり、花壇や畑作りを楽しんでいる。ドライブでの花見や紅葉狩りにも出かけ、周囲に人がいなければ下車してお茶などを飲む事もある。身内の法要のため家族と出かけられた方もいる。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの小口現金を預かり、日常生活用品や希望の品を家族の了解のもと購入している。同法人の事業所に出張販売店が定期的に来ており、自身で品を選び、財布から支払いをして頂くように支援を行っている(面会制限により現在中止)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族の希望に応じ、電話や手紙のやり取りを支援している。家族には、毎月末に現金出納帳・領収書・生活状況報告の手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはテーブルを2つに分け設置。又、個々にゆっくりと過ごして頂く様にソファを2つ設置している。フロアの窓からは、山や木々が見え季節を感じられる。壁には、行事の写真や作品を展示している。	平屋作りで窓が多く、リビングは明るい。食事をするテーブルと椅子、窓際に2種のソファ、壁際に休憩用ベッドがあり、好みの場所で寛げる。入居者は仲間といるのを好み、ほとんどの時間をリビングで過ごす。各テーブルにはコロナ感染予防のボードを設置し、テレビを見たり、会話をしたり、何かを作ったりして過ごされている。月ごとの大きなカレンダーをリビングの壁に、習字などの作品は廊下の掲示板に貼り、季節により作品を変えている。午前と午後に換気を実施し、空気清浄機2台が稼働している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを活用し、落ち着ける環境を整えている。気の合った入居者同士がソファに座り、ゆっくりとした雰囲気の中で会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を自宅から持参して頂き、使用する事で安心して過ごせる環境作りに努めている。又、写真や花を飾ったりと本人らしい居室で過ごして頂く事が出来ている。	電動ベッドとエアコンディショナーが予め設置され、寝具やタンス、カーテンなどは家族等が準備している。収納スペースがないため、扉側の壁上段に棚を作り、軽くてかさのある物等を置いている。掃き出し窓からの採光により部屋全体は明るい。仏壇や全身姿見、椅子、写真などを置いているが、安全面や家具の大きさ、動線等を考えて職員は配置へのアドバイスをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレが認識しやすいように、表札を付けている。トイレや自分の居室が分かれば自身で行く・帰れる環境を作っている。又、タンスの引き出しに内容を表記する事で自分で整理できるように配慮している。		